

の古生物学の先生との共同研究になっています。他大学や科博などの研究者との関わりも生じるのも貴重な経験だと思います。

また、サブプロジェクトとして「ヤツメウナギの視覚系の進化」をテーマとした研究も行なっています。ヤツメウナギの眼は成体になるにつれて発達してくるのでその過程における視覚に関わる脳領域や神経などを研究することで視覚がどのように生じてくるのか、それが脊椎動物の視覚獲得の進化とどう関わるのかも研究しています。

具体的な研究生生活については以下のようなものです。

月曜日 研究の成果報告、ヤツメウナギの形態に関するドイツ語文献の輪読会

火曜日 研究を進める、補助的な実験を行う

水曜日 研究を進める、補助的な実験を行う

木曜日 研究を進める、補助的な実験を行う

金曜日 別の研究室と合同で論文発表会^{*4}

土曜日 不定期で院生と進化発生学の専門書の輪読会

先生の方針として、「未熟な学類1年生」としてではなく「一人のプロの研究者」として扱われているので、**かなり大変**ではあります。研究プレゼンや輪読会、実験で幾度となく自分の知識や技術のなさを突きつけられて心が折れそうになります。というか折れた。一方で、学類1年生から本気で研究活動に励むことは、最初の論文を出す時期がかなり早まりますし、それは学振において大きなアドバンテージになります。また、先生が**学類時代に学んでおくべきことを教えてください**し、将来にどのような進路に進むかの相談にも乗ってくださいます。私の意見としては、博士課程まで進むことを本気で考えている方はこのプログラムを利用することを強くオススメします。

6.2.3. ハチと聞いたらトヨタ 86 が先に浮かぶ

研究分野：保全生態学、昆虫生態学

研究者：小林 拓夢

指導教員：横井 智之先生

私は中学・高校でクロヤマアリの嗜好性に関する研究を行い、大学でも**社会性昆虫に関する研究を続ける**ことを考えていました。そのため、入学前にこの制度を利用して昆虫に関する研究室に所属することを決定していました。

大学入学後、横井先生にメール連絡をして一度対面でお話する機会をいただきました。そこではまだ大まかな研究内容しか決まっていなかったため、澤村先生や佐藤先生の研究室の見学も勧められて実際に見学をしてから最終的に研究室を決定する運びになりました。

その後、5月ごろに最終的に保全生態学研究室へ所属することを最終決定し、その旨を横井先生にお伝えしてこのプログラムへ参加しました。その際に、横井先生からは「研究室の一員として週2回のゼミ(論文輪読)に参加すること」がこのプログラムに参加する条件として提示されました。また、私が宅通であるために新たにアリを飼育する時間的制約が生まれてしまうという点やこれまでの研究で主に標本数などの点がデータとして不十分だったという点を考慮し、研究室で飼

⁴ 学期終わりは研究進捗発表会